

交番へ行つても聞いた。

新吉は喪相して了つた。

薄暗い公園の中を、外套のやうに跼んで影摺り廻つた。

半紙で造つた白いハタキを拾つて、新吉は觀音堂の拜殿へ額づいて、觀音經を讀んだ。

辻潤は心配して、自動車會社の前に待つてゐた。

善之助が又何處かへ失踪して居なくなつたと言ふ。

先に吉原へ行つたのかも知れない。

黒瀬に寸時遇つて、そして布施と三人で廓へ行く。

辻潤は厄落しだと言ふ。

又カフェーで、雀焼とドテ焼で酒をのむ。

一時過ぎてゐた。

或樓へ上つた。

下足札みたいなもので籤をして、辻潤は實に年増のブサイクな女に當つた。